



## ジャコ・パストリアスに捧ぐ〜ムードスウィングス〜 ／マウリッツォ・ローリ

①ドナ・リー・ジャム ②スリー・ヴェイズ・オブ・ア・シータレット ③サイ-  
ン・ネグン ④グッドバイ・ボータ・バイ・ハット ⑤ドナ・リー ⑥ウインダ・  
アンド・ア・ブレアー ⑦ハイナ ⑧コンサイニウム ⑨インヴィテーション  
⑩ボートレイト・オブ・ネーシー 11D-ジャコ(ジャコ、ジャンゴ、ジョン・ホイス  
に捧ぐ)

●マウリッツォ・ローリ(Bar) ⑩ マイク・スターン(g) マイケル・マンリンガ(dr)

●ローヴェンダ・スピリッツ HKCT-2500 ¥2500 2月10日発売

お問い合わせ: 02556-2407

“これまでのジャコへのトリビュート作品のベストだと断言できる”とはジャコ未亡人イングリットの言葉だが、むしろ、未亡人が最高のジャコの音楽の理解者と言えるかどうかは分からないが、このアルバムを聴いて彼女の口から出たこの言葉に、多分ウツはない。何故なら、筆者もまた、そんなことを思ったのだ。冒頭の〈ドナ・リー〉からジャコ・ファンは、思わず身を乗り出すに違いない。ジャコのフレットレス・ベースを鮮やかに蘇らせたこのローリの演奏は、世界のジャコ・マニアに驚異である。スタイルのコピーと言えばそれまでだが、しかし、そう言われることを恐れずに突っ込んでいくこのイタリアのベーシストに、音楽家としてのかなりのしたたかさを感じた。ジャコと比べると微妙にビートのバネが弱い、逆にそこにローリの冷靜、知的な感受性のようなものをしっかり感じるのだ。

このアルバムの聴き所は、そんな見事なベース演奏だけではない。実はこのアルバムはオーケストラ作品で、マウリッツォ・ローリは、むしろこのバンドをリードする素晴らしい才能として、はくのアタマにインプットされている。オリジナルの面白さを大切にしながら、様々な工夫を凝らしたこのアレンジは、実験的で冒険心にあふれ、そして、意外な未来を予感させる。このジャコへの強い共感、まさにそこにあるのだと思う。未来を予感させる柔らかな想像力、それは15年経った今も新鮮でありつづけるジャコというベーシストの音楽の核心でもあるのだ。そこに共振するようにこのローリの音楽／演奏がある。ゲストのマイク・スターンもそんな自由な世界に何ともノビノビと演奏。傾聴！ (青木和富)